

| Minami Kyushu University Syllabus | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|---------|----|---------|--------------------------------------|------------------------------------|----------------|
| シラバス年度 | 2021 | 開講キャンパス | | 都城キャンパス | 開設学科 | | 環境園芸学科 |
| 科目名称 [英語名称] | 環境園芸概論 [Introduction to Environment and Horticulture] | | | | 実務経験 教員担当 | | アクティブ ラーニング |
| 科目コード | 710001 | 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 担当学年 | 1 年次 |
| 教員氏名 | 前田隆昭/山口健一/関西剛康/岡島直方/平岡直樹/牧田直子/林典生/菅野善明/杉田亘/山口雅篤/日高英二/新 | | | | 学位授与の方針 との関連 | DP1(1) DP1(2) DP3(1) DP3(4) DP3(5) | |
| 授業概要 | <p>初次教育として、多様な領域を横断した『環境園芸学科』の基礎領域の理解を目的とし、本学科で修得すべき知識と技術についての導入を促します【知識・理解の育成】。</p> <p>人類が自然環境を維持しながら生物資源を有効に活用して、安全で安定な食と住を提供するために、園芸植物や樹木等の身近な植物の果たす役割はとて大きい。講義では、植物が関わる食糧生産から流通までの過程、ならびに植物を用いた生活空間の創造や癒し効果を利用した療法・福祉等について、自然科学・社会科学の観点から解説します。</p> | | | | | | |
| 関連する科目 | 1年次開講の専門基礎科目である「環境園芸実験実習Ⅰ」「環境園芸実験実習Ⅱ」「環境科学」「生命科学」「植物資源科学」、3年次開講の「技術者倫理」を同時または履修後に受講しておくこと。 | | | | | | |
| 授業の進め方と方法 | 授業は、園芸学分野(園芸生産環境専攻、植物バイオ・育種専攻)、造園学分野(造園緑地専攻、花・ガーデニング専攻)、自然環境分野(自然環境専攻)の3分野5専攻の教員がオムニバスで行います。 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回[授業概要]環境園芸学の意義と概要(学科長) 環境園芸学科の概要について学びます。</p> <p>第2回[園芸学分野:園芸生産環境専攻]園芸学について(前田隆昭) 園芸学の概要について学びます。</p> <p>第3回[園芸学分野:園芸生産環境専攻]栽培環境について(山口健一) 園芸植物の栽培・生産における生物的環境について学びます。</p> <p>第4回[造園学分野:造園緑地専攻]造園学の新規軸と伝統性を考える(平岡直樹) 造園学の環境学分野での位置づけと果たす役割から極めて幅の広い実務を紹介する。</p> <p>第5回[造園学分野:造園緑地専攻]造園学の新規軸と伝統性を考える(関西剛康、岡島直方) 造園行為や造園学の始まりについて(岡島)や、ランドスケープ分野の多様性を学ぶ(関西)</p> <p>第6回[園芸学分野:植物バイオ・育種専攻]植物バイオ育種の最前線(菅野善明) 植物バイオ技術によって作出された植物とその方法を解説します。</p> <p>第7回[園芸学分野:植物バイオ・育種専攻](山口雅篤) 花色の育種に着目して、特に青色バラの改良について分子育種の最前線の解説を行う。</p> <p>第8回[造園学分野:花・ガーデニング専攻]ガーデン・庭園におけるデザイン効果および最新事例(牧田直子) 日本庭園、海外のガーデンの歴史や特徴、最新事例について学びます。</p> <p>第9回[造園学分野:花・ガーデニング専攻]ガーデニング活動による地域共生社会構築(林典生) ガーデニング活動で誰もが地域で支えあいながら暮らせる社会づくりに貢献していることについて学びます。</p> <p>第10回[自然環境分野:自然環境専攻]樹木の病気と環境の関わり(日高英二) 樹木の気象障害や土壌障害について解説する。</p> <p>第11回[自然環境分野:自然環境専攻]水田地帯の生物多様性(中野光議) 水田地帯に生息する動植物の多様性と保全について学びます。</p> <p>第12回[自然環境分野:自然環境専攻]外来生物の脅威(新谷喜紀) 近年しばしば報告される外来生物の問題について概説する</p> <p>第13回[環境園芸学その1]環境園芸学科の学びについて その1(外部講師・園芸分野) 園芸学分野の外部講師を招き、園芸学について学びます。</p> <p>第14回[環境園芸学その2]環境園芸学科の学びについて その2(外部講師・造園・自然環境分野) 造園学分野または自然環境分野の外部講師を招き、造園学および自然環境について学びます。</p> <p>第15回[授業まとめ]環境園芸概論の総括(学科長) 環境園芸概論のまとめとして、今までの授業についてレポートを作成します。</p> | | | | | | |
| 授業の到達目標 | 自然と人間の共存のために必要な農学領域を認識し、環境園芸学科を構成する園芸学分野・造園学分野・自然環境分野における基礎的な各論と、それらを繋ぐための総論の必要性について学び、農学における横断的学問領域の基礎が理解できるようになる【知識・理解の育成】。 | | | | | | |
| 授業時間外の学修 | 【復習】毎回授業で学習した内容に関しては、次回までに復習(学習に係る標準時間は約1時間)しておくこと。 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テスト、レポート等は評価後、返却及び解説をします。 | 評価方法 | | | 各授業における小テスト、レポート等(100点)により総合的に評価します。 | | |
| テキスト | 必要に応じて、授業ごとに資料を配布します。 | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて図書、資料を紹介します。 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |